令和５年度第２回練馬区文化財保護審議会会議録

♦　開催日時
　令和５年 11 月 22 日（水）午後２時～午後４時
♦　開催場所
　練馬区立生涯学習センター　第１教室
♦　出席者
　出席委員４名（会長、ほか３名）
　区出席者４名（文化・生涯学習課長、ほか職員３名）
♦　議事
　令和５年度登録文化財の確認について
♦　公開可否
　原則公開（傍聴人：なし）
♦　事務局
　練馬区 地域文化部 文化・生涯学習課 伝統文化係
　℡　03-5984-2442

会 議 の 要 旨

＜会長＞　開会の挨拶
＜事務局＞　会議の成立について報告
＜文化・生涯学習課長＞　挨拶
＜会長＞
　審議に入ります。
＜事務局＞
　今回は会場に対象資料を用意しております。ご確認宜しくお願いいたします。
（事務局より資料ごとに、完形品や破片の状態、数等について説明、順次確認）
＜会長＞
　数の数え方に関して、仏像でしたら、腕が外れていれば、その旨を記載します。後の人がわからなくなってしまうからです。腕を接合すれば、現状変更になります。それと同じことで、仮に阿玉台式土器の破片が５個あったとして､接合して４個になったら､現状変更が必要です。実測図上で破片同士が接合するはずだから、実際に破片が５個なのに、接合した場合の点数で４個と数える、という考え方には納得できません。
＜副会長＞
　考古学の考え方があるのでしょうか。
＜事務局＞
　所有者の許可を得た上で、文様の形態をみるために、今回の調査で接合しています。以前の接合の痕跡もみられますので、武蔵高等学校でいったん接合したけれども、取れてしまったものと思われます。
＜会長＞

今、接合したとしても、武蔵高等学校にお返しした後、やはり接合が取れてしまうようであれば、無理に 4 個と数えても意味がありません。かえって数が分からなくなってしまいます。そして、現状変更が発生します。

＜事務局＞

1 個体という表現は問題ありませんか。

＜会長＞

問題ありません。現状で、1 個体のうちに破片が何点あり、どの破片とどの破片が接合すると記載しておけばよいのです。そうなると、全部で 13 個体ということになります。

＜委員＞

（縄文土器の傍らに置かれている石膏を指して）これは何ですか。

＜事務局＞

石膏です。文様の知識のある方が石膏に色をつけて、復元に用いていたものです。今回の調査の段階で、復元個体から取り外しました。

＜会長＞

（縄文土器の傍らに置かれている破片を指して）こちらの破片は何ですか。

＜事務局＞

同一個体ですが、接合しなかったものです。

＜会長＞

そうすると、員数は「13 個体分」がよいのではないでしょうか。破片があるものについては、現状での数を説明文中に記載します。どのように接合するかについては、実測図参照でよいと思います。なお、石膏は登録から外すべきです。

＜副会長＞

これまで員数で同様の問題が出た時はどのようにしていましたか。

＜事務局＞

これまでは、完形の出土品を 1 点として登録しています。

＜会長＞

員数を「13 個体分」とする方向になりましたので、「①勝坂式土器（1～7）」としているところを、「①個体 1～7（勝坂式土器）としてはいかがでしょうか。②阿玉台式土器と③加曽利Ｅ式土器も同様です。そして、説明文中には破片の数と接合状況を盛り込んでください。

＜事務局＞

たとえば阿玉台式土器でしたら、10 点の破片でうち 4 点が接合する、と記載します。

＜会長＞

阿玉台式土器で「色調が武蔵野台地では珍しい灰褐色」とある部分は、「色調が武蔵野台地出土の阿玉台式土器では珍しい灰褐色」とした方がよいでしょう。

＜副会長＞

土器の時期を、分かりやすく入れていただけたらと思います。

＜会長＞

表の時期の欄に、勝坂３とか阿玉台Ⅲとか書かれていますが、その横へ、大体いつ頃と書いたらどうでしょうか。

＜委員＞

個別の土器に対する年代測定は行っていますか。

＜事務局＞
　行っていませんので、年代は一般論でしか言うことができません。
＜会長＞
　しかし、勝坂３式土器であると言っている以上、およその時代は言えるわけですよね。勝坂３式土器はいつ頃ですか。
＜事務局＞
　研究者によって解釈が異なりますが、およそ 4,500 年位前です。
＜会長＞
　考古学では、紀元前何千年ではなく、何年前と表記するものですか。
＜事務局＞
　そうです。
＜会長＞
　50 年 100 年経ったら、何年前が変わりますね。
＜事務局＞
　1,000 年単位の世界ですので、あまり問題になりません。
＜会長＞
　加曽利は E1 から E4 までありますが、E1 は何年位前ですか。
＜事務局＞
　研究者によって見解がさまざまで、どのように記載するか難しいところがあります。
＜会長＞
　誰々の説によると注釈を入れるなどして、区民がわかりやすいようにしてください。
＜事務局＞
　一般的には、勝坂という土器型式は中期中葉ですので、4,500 年位前。加曽利の終末は 4,000 年位前です。
＜会長＞
　それでは、その説明を入れてください。
＜委員＞
　「著名な考古学者山内清男」とありますが、著名という言葉が気になります。具体的な実績を記載するとか、何か言い方がないでしょうか。
＜副会長＞
　山内清男の説明は、別の箇所に記載があります。そこに実績を記せば「著名な」は不要でしょう。
＜会長＞
　「同年の武蔵高等学校開校記念祭」というのは、周年記念祭という意味ですか。
＜事務局＞
　そのとおりです。毎年行われ、100 年続く伝統的な行事です。
＜会長＞
　「開校記念祭」を削除して、「同年の武蔵高等学校における講演原稿」としてはいかがでしょうか。令和 3 年に講演原稿と発掘調査の写真を早稲田大学に寄贈したのは、どなたですか。
＜事務局＞
　山内清男のご遺族です。

＜会長＞
　説明文に盛り込んでください。
＜事務局＞
　承知しました。
＜会長＞
　「おびただしい土器は」という表現がありますが、今回登録するのは出土品の全てではありません。「これらの土器は」ではいかがでしょうか。
＜事務局＞
　承知しました。
＜会長＞
　登録の理由の箇所にも、「日本考古学で著名な山内清男」という文章があります。「著名な考古学者山内清男」としてははいかがでしょうか。
＜事務局＞
　承知しました。
＜会長＞
　最後の参考文献の記載方法ですが、分野によって色々なルールがあります。今回は、考古学の一般的な書き方とも違うようですが、何かお考えあってのことですか。
＜事務局＞
　これまでの練馬区における答申文の書き方に揃えました。
＜会長＞
　色々な記載方法がありますし、分野が異なれば毎年同じ書き方である必要はないと思います。事務局でご検討ください。
＜会長＞
　本日の審議事項をここで終了します。次第 2 の連絡事項について、事務局からお願いします。
＜事務局＞
　次回第 3 回では答申案の審議、第 4 回は答申を行います。
＜会長＞
　本日はこれにて閉会といたします。ご協力ありがとうございました。